

大腸菌汚染地点が過半数 多摩川中・下流域



The Knights

多摩川の中流・下流域では、し尿汚染の指標である大腸菌群が環境基準に適合していないところが調査地点の過半数を占めています。

調査は2005年の6月、11月に19区市が多摩川(15地点)と支流12河川(23地点)の合計38地点で水を採取し、pH、BOD、SS、大腸菌群数などを調べました。その結果、多摩川の中・下流域では11地点のうち6月は9地点、11月も6地点が大腸菌群数が基準に適合していませんでした。有機性汚濁の指標となるBODについても、6月に中流域2地点で基準不適合となっています。なお、重金属類、有害有機化合物など健康項目についてはいずれも全て基準値に適合していました。

当社では河川、排水、下水など水質汚濁に関する分析について、長年の実績と経験がございます。是非お気軽にお問い合わせください。

資料 2006年3月23日付 日本経済新聞

水質分析箇所 清水圭介